

めぐみイエス・キリスト教会

2024年6月2日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第709号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌355「主と共に歩む」 p. 568

【交読文】 No.43 詩篇第136篇 p. 913

【賛美Ⅱ】 新聖歌202「一度死にしわれをも」 p. 302

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「主の御前に」

【聖書朗読】 ルカの福音書5章17節～26節(新約p. 118)

【礼拝説教】 《中風の人はいやし》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書5章17節～26節)

5:17 ある日のこと、イエスが教えておられると、パリサイ人たちと律法の教師たちが、そこに座っていた。彼らはガリラヤとユダヤのすべての村やエルサレムから来ていた。イエスは主の御力によって、病気を治しておられた。

5:18 すると見よ。男たちが、中風をわずらっている人を床に載せて運んで来た。そして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとした。

5:19 しかし、大勢の人のために病人を運び込む方法が見つからなかったので、屋上に上って瓦をはがし、そこから彼の寝床を、人々の真ん中、イエスの前につり降ろした。

5:20 イエスは彼らの信仰を見て、「友よ、あなたの罪は赦された」と言われた。

5:21 ところが、律法学者たち、パリサイ人たちはあれこれ考え始め

た。「神への冒瀆を口にするこの人は、いったい何者だ。神おひとりのほかに、だれが罪を赦すことができるだろうか。」

5:22 イエスは彼らがあれこれ考えているのを見抜いて言われた。「あなたがたは心の中で何を考えているのか。」

5:23 『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらが易しいか。

5:24 しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたが知るために。」そう言って、中風の人に言われた。「あなたに言う。起きなさい。寝床を担いで、家に帰りなさい。」

5:25 すると彼はすぐに人々の前で立ち上がり、寝ていた床を担ぎ、神をあがめながら自分の家に帰って行った。

5:26 人々はみな非常に驚き、神をあがめた。また、恐れに満たされて言った。「私たちは今日、驚くべきことを見た。」

●ポイント1.「共観福音書における平行記事」から

※マルコの福音書2章1節～5節「カペナウムの家」(新約p.67下段)

2:1 数日たって、イエスが再びカペナウムに来られると、家におられることが知れ渡った。

2:2 それで多くの人が集まったため、戸口のところまで隙間もないほどになった。イエスは、この人たちにみ言葉を話しておられた。

2:3 すると、人々が一人の中風の人を、みもとに連れて来た。彼は四人の人に担がれていた。

2:4 彼らは群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、イエスがおられるあたりの屋根をはがし、穴を開けて、中風の人が寝ている寝床をつり降ろした。

2:5 イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に「子よ、あなたの罪は赦された」と言われた。

●ポイント2.「パリサイ人たちと律法の教師たち」とは？

※ヨハネ伝1章19節～20節・24節「バプテスマのヨハネ」(新約p.176)

◎先週の礼拝メッセージ【主イエスのお心】

《新改訳2017版は、「ツァラアト(ヘブル語)」となっていますが、新改訳旧版では、「らい病」と訳されていました。ギリシャ原語は「レプラ」であって、「ハンセン氏病」のことを指しています。ただし、聖書の中には、そうとは言えない場合も含まれていて、よって、皮膚病全般や、家のカビなどにも、同じ原語が用いられ、具体的に何を指しているのか、断定出来ないことも事実です。しかし、尾山令仁先生によりますと、明らかに、「ライ病」である場合が、三箇所あるとのこと。

一つが、「将軍ナアマン」で、もう一つが、主が癒された「十人のライ病人」であり、そして、本日の聖書箇所の場面となります。

「主よ、お心一つで私をきよくすることがおできになります。」

なぜ彼はこんな言い方をしたかと言いますと、当時のユダヤにおいては、「ライ病」は、罪を犯した者に対する神様の裁きであったと考えられていたからです。そのことは、民数記に書かれています。

「私の心だ。きよくなれ」この言葉にこそ主の深い愛が感じられます。主のお心はいやされることです。すると、すぐに彼はいやされました。「だれにも話してはいけない。ただ行って、自分を祭司に見せなさい。そして、人々への証しの為、モーセが命じたように、あなたのきよめのささげ物をしなさい。」と。これは、レビ記に書かれています。

主は、すべての律法を守られる為に来られました。なぜなら、この律法を定められたのは、主ご自身であるからです。しかし彼は喜びの余り、人々に話してしまい、その結果、多くの群衆が駆けつけ、主は一人寂しい所へ退かなければならなくなりました。ここにも、主の言葉に従うことの大切さが教えられています。

主イエスの御心は、誰もが皆、健やかで、寿命を全うすることです。主は、いやしの働きを十二使徒たちに委ねられました。そして、神のみ心は、御子を信じて、「永遠のいのち」をいただくことなのです。》

お知らせ

※次回は6月9日(日)は午前10時から、通常通りに行ないます。